

## 2009 年度 大学職員情報化研究講習会 基礎講習コース

### D 班 第 5 グループ 報告書

#### 「打てば響く情報提供」

##### 【 テーマ設定 】

学生に対する情報提供について、現在どの大学も、ポータルサイトや携帯メール配信など、そのツールは充実している。

しかし、実際は「奨学金受給者 対象約 700 名に情報発信したにもかかわらず、反応は 50 名未満だった」などの事例が示すとおり、必ずしもその効果が十分に表れているとはいえない。

「大学として情報提供はしているので、見ていないのはあくまでも自己責任である。」「過保護ではないか？」等の意見もあったが、今回は“サービス”という観点から、ICT を利用したより効果的な情報提供について考える。

##### 【 問題点 】

##### **学生・職員ともに ICT を利用しきれていない**

- **学生**：情報量が多く、各人では必要なものを取捨選択できない。  
ポータルサイトなどを見ていない・もしくは見る方法を知らない。  
常に使える PC が近くにない・手続き不良等により、ポータルサイトを見られない。  
大学からの情報や呼び出しを重要視していない。
- **職員**：職員間で情報が共有されていない。(結果、学生をたらいまわしにしている)  
ポータルサイトへの掲出で満足している。(結果、他の手段を併用しない)

##### 【 課題 】

- ・ 情報提供の際には、「いつ・どこで見られるのか」を意識して、その情報に適した手段やルートを選んで効果的に発信する。
- ・ 学生の情報取捨選択の能力を意識して情報を発信する。
- ・ 学生に狙い通り伝わるよう情報の重要度に応じ、情報提供の方法を工夫する。
- ・ 職員が学生に対して発信した情報を、積極的に他の職員にも提供する。

## 【 解決策 】

### 情報に関する意識改革

学生を受け身にさせず、職員も発信するだけで満足しないことが大切である。

#### ● 学生側：

##### 情報とは？その意義、重要性を理解させる

ポータルサイトの存在や情報収集の方法を周知した上で、自主的に、定期的に確認してもらおうよう促す。

##### 情報活用の方法を周知させる

オリエンテーションなど、上級生から学生の目線で情報の収集方法・重要性・利便性を説明してもらおう機会を設ける。

また、情報に関する授業で大学発信の情報の収集方法を紹介してもらおうよう教員と連携する。

##### 情報を自分で選択できるようにさせる

必要な情報をすべて職員が切り出して発信するのではなく、学生自身に必要な情報を選択してもらおう。

ポータルサイトのオプション設定（例えば携帯電話へのメール転送）などは、個人の選択で作業の意味を理解した上で利用してもらおう。（オリエンテーションや授業などで一斉に設定させても意識に残らず、後に手続き不良となるケースがある）

#### ● 職員側：

##### 情報にふさわしい手段、ルート、デザインを考える

各情報発信手段の特性を生かし、使い分ける。

- ・ポータルサイト...基本ツール、細かく説明したいときなど
- ・携帯電話...補助的手段
- ・紙媒体(ポスターやチラシ)...ポータルサイトとの併用、必ず手渡したい時など
- ・放送...緊急性のあるとき
- ・オリエンテーション...話す対象が明確で具体的に説明したいときなど

##### 職員間で対学生向けの情報を把握する

職員のイントラネットに学生向けのインフォメーションを投稿するなどして、今どのような情報が学生に向けて発信されているのか職員間で情報を共有する。それによってワンストップサービスの実現に貢献できる。

##### 情報発信後のアフターケアを行う

何も調べずに窓口に来る学生に対して、直接的な回答をするのではなく、どのようにしたら必要な情報を得られるか、情報収集方法を教示する。

以上により、学生各人にとって重要な情報を逃さずキャッチし、よりよい学生生活を送ってもらうことを狙いとしている。そして、最終的には膨大な情報を自ら取捨選択し活用できる力を身につけて社会に出ってもらうことを主たる目標としている。

#### **【 総括 】**

- ・ ICT は便利であるが、必ずしも万能ではない。ICT と他の情報提供手段の特徴を理解し、併用する事で、より効率のよい宣伝効果が得られる。
- ・ 発信する私たち大学職員と、受信する学生双方の意識の変化が必要である。

以上